

(表面より)

③ 職員もよく頑張りました。袖付きガウンの「完全武装」は滝のように汗が出て「体重が1.5キロ減った」「着替えをしないと汗で服が絞れるほど」と、皆ヘトヘトでした。勤務の急な変更にも快く応じてくれました。職員全員で感染拡大阻止に立ち向かった結果であり、誇りに思います。収束後、職員から振り返りアンケートをとりました。細かい改善点も見えてきて、きちんとマニュアル化したいと思います。

④ コロナ陽性が判明した入居者さんは、高齢者で基礎疾患があっても、容易に入院できない状況でした。酸素飽和度が、「80%台に下がれば入院の一つの基準である」と保健所からの電話の返答でした。これは相当つらい状態にならないと入院できないということです。

§終わりに

行動制限もなく行動の自己責任的な様相になってきた新型コロナ感染対策ですが、高齢者施設は毎日ヒヤヒヤで気が抜けません。職員も体調の異変を感じた時、迅速に対応する必要があり、日々の感染対策がますます重要となっています。

コロナ感染対策にはお金がかかります。行政からの助成に期待したいと思います。

最後に、急な予約の変更等、ご利用者さま、ご家族さまに多大な心配とご迷惑をおかけしましたこと、謹んでお詫び申し上げます。



私の趣味

ショートステイご利用者のF様にお話をききました。

○定年退職後にハマったこと～篆刻(てんこく)

65歳で定年退職した後、子供たちと消しゴム判子を楽しんでいましたが、物足りなくなって、たまたま奥さんが見つけてくれた「篆刻」の教室に通い始めました。篆刻とは石に文字を掘る芸術です。よく絵画や書などにある名前の判子「落款」、あれが篆刻です。中国人の先生に教えていただいて、最初一か月のつもりが3年通いました。溝のように掘る「陰」と浮彫のように掘る「陽」があって、私はどちらも掘りましたが「陽」のほうが得意でした。同窓会に行くときには全員の名前を掘ってプレゼントしましたら、とても喜ばれました。

毎日掘って約3千個くらい作りましたが、熱心のあまり左手が腱鞘炎となり、ハネ指になり支えていた腕も手根管症候群となり使えなくなってしまいました。

(次号へ続く)



<お知らせ>

11月より和歌山YMCA国際福祉専門学校より、特養とショートステイで介護実習生の受け入れをする予定です。皆様におかれましては、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。 施設長 田畑 安敏

編集後記

8月は本当にコロナ感染に振り回されたひと月でした。

コロナは世の中の様々なことを変えてしまったように思います。特にインターネットやスマートフォンの発達とともにコミュニケーションの取り方、仕事の仕方を変えてしまったと思います。とても便利で手軽になった面もあれば、人間味が薄れていくのではと危惧する面もあります。

その変化についていけるか不安もありますが、今は友人が送ってくれるスマホ動画で孫ちゃんの可愛らしさに癒されています。自分に孫ができるのはいつのことかと、沖縄で働く息子に思いを馳せます。(亜)